

事例

料理を通した「心を育む教育手法」 (第8回食育活動表彰 農林水産大臣賞受賞)

キッズ☆サポーター（福井県^{おばま}小浜市）

キッズ☆サポーターは、一般的な子供料理教室とは異なるコンセプト「料理を学ぶのではなく、料理で学ぶ」を掲げ、幼児の料理教室「キッズ・キッチン」及び小学校高学年の料理教室「ジュニア・キッチン」の企画・実践に取り組んでいます。

小浜市では、全ての園児や児童を対象とした「だれ一人取り残さない」という義務食育体制の下で食育活動を実践しており、地域全体へ食育の効果が浸透しています。料理の知識や技術のみならず、達成感、満足感、協調性、自立心等の獲得、魚の調理を通じた「命をいただくこと」の体得等、「心を育む教育手法」にも重点を置いて活動しています。

キッズ・キッチンでは、子供たちが主人公となり、本物の包丁の使用や火の管理を含め料理全般をこなします。その際に保護者は離れたところから見守ることで、子供たちが持つ潜在的な能力を最大限引き出します。単に料理の方法や手順だけでなく、マナーや協力し合うこと、約束を守ること等の社会で生きていく上で大切なことを総合的に学べる機会となっています。ジュニア・キッチンでは、市内の全小学校6年生が参加し、郷土料理の作り方や味についてだけでなく、御食国^{みけつくに}や鯖街道^{さばかいどう}等、食に関連した小浜市の歴史を学ぶ機会にもなっています。地域の歴史についても学ぶことで、子供たちが郷土に対する誇りを持つことも目指しています。

取組の効果として、参加した子供たちが食べ物好き嫌いが減ったことや食への関心が高まったことに加え、子供たちが協力しながら作業することで協調性が育まれ、モノをつくりあげる行為を通して自信や達成感の醸成につながっています。また、キッズ・キッチンに参加した子供たちの保護者も「できるだけ一緒に料理をしてみようと思った。」「口出しをせず見守るという私の経験にとっても意味があった。」等、子供たちの成長に心が動かされたという声が多々ありました。

今後もキッズ・キッチンやジュニア・キッチンの企画・実践を継続し、小浜市の子供たちが等しく食について学び、体験できるという義務食育体制の下で食育活動に取り組んでいきます。



魚をテーマにしたキッズ・キッチンの様子



仲間と料理に挑戦している様子